

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 長岡市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
秋葉タクシー(株)	栃尾地域(西谷地区ほか) デマンド型乗合タクシー	実証実験(R1.10~R3.3)において、利用者の乗車時間が長くなる時間帯がみられたため、見直しを行い、R3.4からの本格運行では利用者が比較的多い1便を、地区ごとで2便に分割した。また本格運行より、高齢者・障害者割引制度の実施や回数券販売を開始した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 1月あたりの利用者170名以上という目標に対し、実績は1月あたりの利用者337名であり、目標を大きく上回った。本事業は、廃止された路線バスの代替交通として実証実験(R1.10~R3.3)を開始し、R3.4に本格運行へ移行した。その中で、地域住民にとって必要な生活交通として徐々に認識されるようになってきたことが、目標を大きく上回った一因と考えられる。	今後も利用者数を維持するため、割引制度や回数券販売など利用促進に努めるとともに、地域住民や交通事業者の意見を踏まえた運行を検討していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	長岡市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>長岡市内は、鉄道3路線(信越本線、上越線、越後線)が通っており、加えて長岡駅を中心として、放射状にバスを運行している。各方面への基幹路線は整備され、長岡駅との往来手段は確保されている。しかし、バス利用者の減少に伴い、行政負担が増える傾向にあり、結果、特に利用者が少なく、採算が見込めない郊外バス路線の維持が困難となり、市民のニーズに対応できなくなっている。</p> <p>栃尾地域においては、高齢化率30~40%(網形成計画P9参照)かつ過疎地域であり、鉄道が通っておらず、路線バスが重要な移動手段である。しかし、令和元年9月にバス路線が廃止された西谷地区ほか当該エリアは、栃尾地域中心部から10km以上離れた集落が広範囲に及ぶ。一般タクシーを利用した場合、買物や通院などの日常利用においても、住民の経済的負担が大きく、公共交通の確保・維持が必要不可欠である。また、長岡駅との基幹バス路線に接続することで、地域外への移動も可能となり、その利用目的は、通勤・通学・買物・通院と多岐に渡っている。</p> <p>このため、令和元年10月から、廃止されたバス路線沿線住民の生活交通手段を確保するために、デマンド型乗合タクシーの実証実験を開始した。さらに、市内でも有数の豪雪地帯である当該エリアの運行状況を、冬季2シーズンに渡り検証するため、1年半の期間を設けて実証実験を行い、運行時間や経路の見直し等、利便性の向上及び利用促進に向けた啓発を図った。</p> <p>以上により、主に自動車での移動が困難である高齢者等の利用者にとって、生活交通の確保は必要不可欠であり、他に代替する公共交通手段が存在しないことから、現在実施しているデマンド型乗合タクシーの運行を確保・維持し、安定した運行に繋げ、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>